

平成27年11月6日

東京地下鉄株式会社

平成28年3月期第2四半期決算について

(金額単位:百万円)
百万円未満切捨て表示

1. 連結経営成績の概要

- ・当期の決算は、緩やかな景気回復による経済活動の活性化等に伴い、当社の旅客運輸収入が堅調に推移したこと等により、増収増益

	27年3月期 第2四半期(累計) A	28年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
営業収益	198,614	204,003	+5,389	+2.7%
運輸業 (旅客運輸収入)	167,292 (157,841)	181,062 (164,263)	+13,770 (+6,421)	+8.2% (+4.1%)
流通・不動産事業	20,932	20,455	△477	△2.3%
その他事業	10,389	2,485	△7,903	△76.1%
営業費	143,905	145,705	+1,800	+1.3%
営業利益	54,709	58,297	+3,588	+6.6%
経常利益	47,847	51,539	+3,691	+7.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	30,704	33,793	+3,088	+10.1%

① 営業収益

2,040億円(前年同期比+53億円)

- ・運輸業は、緩やかな景気回復による経済活動の活性化等に伴い、当社の旅客運輸収入が堅調に推移したこと等により、増収
- ・流通・不動産事業は、前期末閉店のEchika fit上野等の売上減少等により、減収
- ・その他事業は、広告販売に係る契約の変更に伴う会計処理の変更等により、減収

② 営業費

1,457億円(前年同期比+18億円)

- ・当社の修繕費、固定資産除却費及び諸税の増加等により、増加

③ 営業利益

582億円(前年同期比+35億円)

④ 営業外損益

△67億円(前年同期比+1億円)

- ・営業外収益は、2億円減少の4億円
- ・営業外費用は、支払利息の減少等により、3億円減少の71億円

⑤ 経常利益

515億円(前年同期比+36億円)

⑥ 特別損益

△0億円(前年同期比△0億円)

- ・特別利益は、鉄道施設受贈財産評価額の減少により、32億円減少の1億円
- ・特別損失は、固定資産圧縮損の減少等により、31億円減少の1億円

⑦ 親会社株主に帰属する四半期純利益

337億円(前年同期比+30億円)

2. 財政状態及び長期債務の概要

- ・ 当期末の総資産額は、短期貸付金や有価証券等が減少したこと等により、前期末比207億円の減少
- ・ 当期末の負債額は、主に前期末に計上した工事代等の未払金の支払や借入金の返済により、前期末比413億円の減少
- ・ 当期末の純資産額は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、前期末比206億円の増加

	27年3月期 期末 A	28年3月期 第2四半期末 B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
資産合計	1,324,196	1,303,439	△20,757	△1.6%
負債合計	827,432	786,036	△41,395	△5.0%
純資産合計	496,764	517,402	+20,638	+4.2%
長期債務残高	603,741	591,501	△12,240	△2.0%
自己資本比率	37.5%	39.7%	-	-
D/E レシオ	1.2倍	1.1倍	-	-

(注1 長期債務残高＝長期借入金残高＋社債残高)

(注2 D/Eレシオ＝長期債務残高／純資産額)

3. キャッシュ・フローの概要

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益と非資金科目である減価償却費の計上等により、548億円の資金の流入(前年同期比31億円の収入増)
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資等により、651億円の資金の流出(前年同期比232億円の支出増)
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れ及び社債の発行による収入があったものの、長期債務の返済及び配当金の支払により、251億円の資金の流出(前年同期比50億円の支出減)

	27年3月期 第2四半期(累計) A	28年3月期 第2四半期(累計) B	増減 金額 B-A
営業活動による キャッシュ・フロー	51,757	54,869	+3,111
投資活動による キャッシュ・フロー	△41,846	△65,109	△23,262
(フリー・ キャッシュ・フロー)*	(9,911)	(△10,239)	(△20,151)
財務活動による キャッシュ・フロー	△30,212	△25,180	+5,032
現金及び現金 同等物の増減額	△20,301	△35,420	△15,118
現金及び現金 同等物の期末残高	18,270	17,458	△812

* (フリー・キャッシュ・フロー)＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

【参考1】平成28年3月期第2四半期 連結損益計算書及びセグメント情報

連結損益計算書

(単位:百万円)	27年3月期 第2四半期 (累計) A	28年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因	
			金額 B-A	率 (B-A)/A		
営業収益	198,614	204,003	+5,389	+2.7%	旅客運輸収入 +6,421	
営業費	143,905	145,705	+1,800	+1.3%		
営業利益	54,709	58,297	+3,588	+6.6%		
営業外収益	630	417	△213	△33.8%		
営業外費用	7,493	7,176	△316	△4.2%		
(うち支払利息)	(7,401)	(6,964)	(△437)	(△5.9%)		
経常利益	47,847	51,539	+3,691	+7.7%		
特別利益	3,333	117	△3,215	△96.5%		受贈財産評価額 △3,214
特別損失	3,362	199	△3,163	△94.1%		固定資産圧縮損 △3,210
税金等調整前 四半期純利益	47,818	51,457	+3,639	+7.6%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	30,704	33,793	+3,088	+10.1%		

(百万円未満切捨て表示)

セグメント情報

(単位:百万円)	27年3月期 第2四半期 (累計) A	28年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因	
			金額 B-A	率 (B-A)/A		
運輸	営業収益	174,892	182,280	+7,388	+4.2%	旅客運輸収入の増
	(うち対外部顧客)	167,292	181,062	+13,770	+8.2%	
	営業費	125,386	129,662	+4,275	+3.4%	諸経費の増
	営業利益	49,506	52,618	+3,112	+6.3%	
流通・ 不動産	営業収益	20,962	20,474	△487	△2.3%	前期末店舗閉店に伴う売上減
	(うち対外部顧客)	20,932	20,455	△477	△2.3%	
	営業費	17,477	16,862	△614	△3.5%	諸経費の減
	営業利益	3,485	3,612	+127	+3.6%	
その他	営業収益	11,055	4,825	△6,230	△56.4%	広告契約の変更に伴う広告収入の減
	(うち対外部顧客)	10,389	2,485	△7,903	△76.1%	
	営業費	9,370	2,773	△6,597	△70.4%	広告契約の変更に伴う広告仕入額の減
	営業利益	1,685	2,051	+366	+21.7%	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。

(百万円未満切捨て表示)

内訳の合計値は連結営業収益・連結営業利益と一致しません。

【参考2】平成28年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	27年3月期 期末 A	28年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	107,979	77,368	△30,610	△28.3%	
現金及び預金	17,889	17,466	△422	△2.4%	
その他	90,089	59,902	△30,187	△33.5%	{ 短期貸付金(現先) △24,997 譲渡性預金 △10,000
固定資産	1,216,217	1,226,070	+9,853	+0.8%	
有形固定資産	1,092,146	1,102,282	+10,135	+0.9%	
無形固定資産	91,933	90,452	△1,480	△1.6%	
投資その他の資産	32,137	33,335	+1,197	+3.7%	
資産合計	1,324,196	1,303,439	△20,757	△1.6%	
流動負債	203,117	164,240	△38,877	△19.1%	
1年内返済長期借入金 及び1年内償還社債	62,403	56,165	△6,237	△10.0%	
未払金	58,231	22,139	△36,091	△62.0%	
未払法人税等	12,666	18,112	+5,445	+43.0%	
その他	69,816	67,822	△1,993	△2.9%	
固定負債	624,315	621,796	△2,518	△0.4%	
社債	345,000	340,000	△5,000	△1.4%	
長期借入金	196,338	195,335	△1,002	△0.5%	
その他	82,976	86,461	+3,484	+4.2%	
負債合計	827,432	786,036	△41,395	△5.0%	
純資産	496,764	517,402	+20,638	+4.2%	
負債・純資産合計	1,324,196	1,303,439	△20,757	△1.6%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考3】平成28年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	27年3月期 第2四半期 (累計) A	28年3月期 第2四半期 (累計) B	増減 金額 B-A	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,757	54,869	+3,111	
税金等調整前四半期純利益	47,818	51,457	+3,639	未払消費税等の増減額 △10,424 前受運賃の増減額 +5,232
減価償却費	33,097	32,655	△442	
営業債務の増減額	△9,176	△10,685	△1,508	
その他	△856	△5,775	△4,919	
法人税等の支払額	△19,125	△12,783	+6,342	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41,846	△65,109	△23,262	
設備投資額	△42,868	△67,222	△24,353	
補助金の受入による収入	336	1,141	+804	
その他	686	972	+286	
(フリー・キャッシュ・フロー)	9,911	△10,239	△20,151	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△30,212	△25,180	+5,032	
短期借入金の純増減額	6,000	-	△6,000	
長期借入れ及び社債の発行による収入	9,000	24,921	+15,921	
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	△32,340	△37,240	△4,899	
配当金の支払額	△12,782	△12,782	-	
その他	△89	△79	+10	
現金及び現金同等物の増減額	△20,301	△35,420	△15,118	
現金及び現金同等物の期首残高	38,572	52,878	+14,306	
現金及び現金同等物の期末残高	18,270	17,458	△812	

(百万円未満切捨て表示)

【参考4】平成28年3月期第2四半期 個別損益計算書

(単位:百万円)	27年3月期 第2四半期 (累計) A	28年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
鉄道事業営業収益	173,843	181,550	+7,707	+4.4%	
旅客運輸収入	157,841	164,263	+6,421	+4.1%	定期 +2,816 定期外 +3,605
鉄道線路使用料収入	800	700	△99	△12.5%	
運輸雑収	15,201	16,587	+1,385	+9.1%	広告料 +1,289
鉄道事業営業費	125,506	129,844	+4,338	+3.5%	
人件費	42,142	42,513	+370	+0.9%	
経費	47,649	51,487	+3,837	+8.1%	修繕費 +1,696 管理委託費 +1,579
諸税	4,305	4,819	+514	+11.9%	
減価償却費	31,407	31,023	△383	△1.2%	固定資産除却費 +1,219 電気料 △697
鉄道事業営業利益	48,337	51,705	+3,368	+7.0%	
関連事業営業収益	6,294	6,507	+212	+3.4%	
関連事業営業費	2,968	2,838	△129	△4.4%	
関連事業営業利益	3,326	3,668	+341	+10.3%	
全事業営業利益	51,663	55,374	+3,710	+7.2%	
営業外収益	2,555	2,474	△80	△3.2%	
営業外費用	7,486	7,149	△336	△4.5%	支払利息 △437
経常利益	46,732	50,698	+3,966	+8.5%	
特別利益	3,333	117	△3,215	△96.5%	受贈財産評価額 △3,214
特別損失	3,328	117	△3,210	△96.5%	固定資産圧縮損 △3,210
税引前四半期純利益	46,736	50,699	+3,962	+8.5%	
四半期純利益	30,746	34,071	+3,324	+10.8%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考5】平成28年3月期第2四半期 個別貸借対照表

(単位:百万円)	27年3月期	28年3月期	増減		主な増減要因
	期末 A	第2四半期末 B	金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	101,498	70,723	△30,774	△30.3%	現先 譲渡性預金
現金及び預金	15,477	15,370	△107	△0.7%	
未収運賃	25,596	24,455	△1,141	△4.5%	
短期貸付金	25,002	5	△24,997	△100.0%	
有価証券	10,000	-	△10,000	△100.0%	
その他	25,421	30,892	+5,471	+21.5%	
固定資産	1,209,504	1,218,363	+8,859	+0.7%	
鉄道事業固定資産	1,025,435	1,029,528	+4,092	+0.4%	
関連事業固定資産	40,345	39,849	△495	△1.2%	
各事業関連固定資産	17,425	17,025	△400	△2.3%	
建設仮勘定	92,566	98,232	+5,665	+6.1%	
投資その他の資産	33,732	33,728	△3	△0.0%	
資産合計	1,311,002	1,289,087	△21,915	△1.7%	
流動負債	219,967	180,967	△38,999	△17.7%	
1年内返済長期借入金	37,403	21,165	△16,237	△43.4%	
1年内償還社債	25,000	35,000	+10,000	+40.0%	
未払金	59,383	21,804	△37,578	△63.3%	
未払法人税等	11,128	17,025	+5,897	+53.0%	
その他	87,052	85,972	△1,080	△1.2%	
固定負債	624,996	620,785	△4,211	△0.7%	
社債	345,000	340,000	△5,000	△1.4%	
長期借入金	196,338	195,335	△1,002	△0.5%	
退職給付引当金	62,537	62,340	△196	△0.3%	
その他	21,120	23,109	+1,988	+9.4%	
負債合計	844,964	801,753	△43,210	△5.1%	
純資産	466,038	487,333	+21,295	+4.6%	
株主資本	465,947	487,236	+21,289	+4.6%	
評価・換算差額等	91	97	+6	+7.1%	
負債・純資産合計	1,311,002	1,289,087	△21,915	△1.7%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考6】平成28年3月期第2四半期決算 運輸成績の概要

[運輸成績は、前年同期比で、輸送人員(合計)が4.3%増、旅客運輸収入(合計)が4.1%増と堅調]

区分	輸 送 人 員			
	27年3月期 第2四半期(累計) A	28年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			人員 B-A	率 (B-A)/A
	千人	千人	千人	%
定 期	720,466 (3,937)	748,595 (4,091)	+28,128	+3.9
定 期 外	529,229 (2,892)	554,651 (3,031)	+25,421	+4.8
合 計	1,249,696 (6,829)	1,303,246 (7,122)	+53,550	+4.3

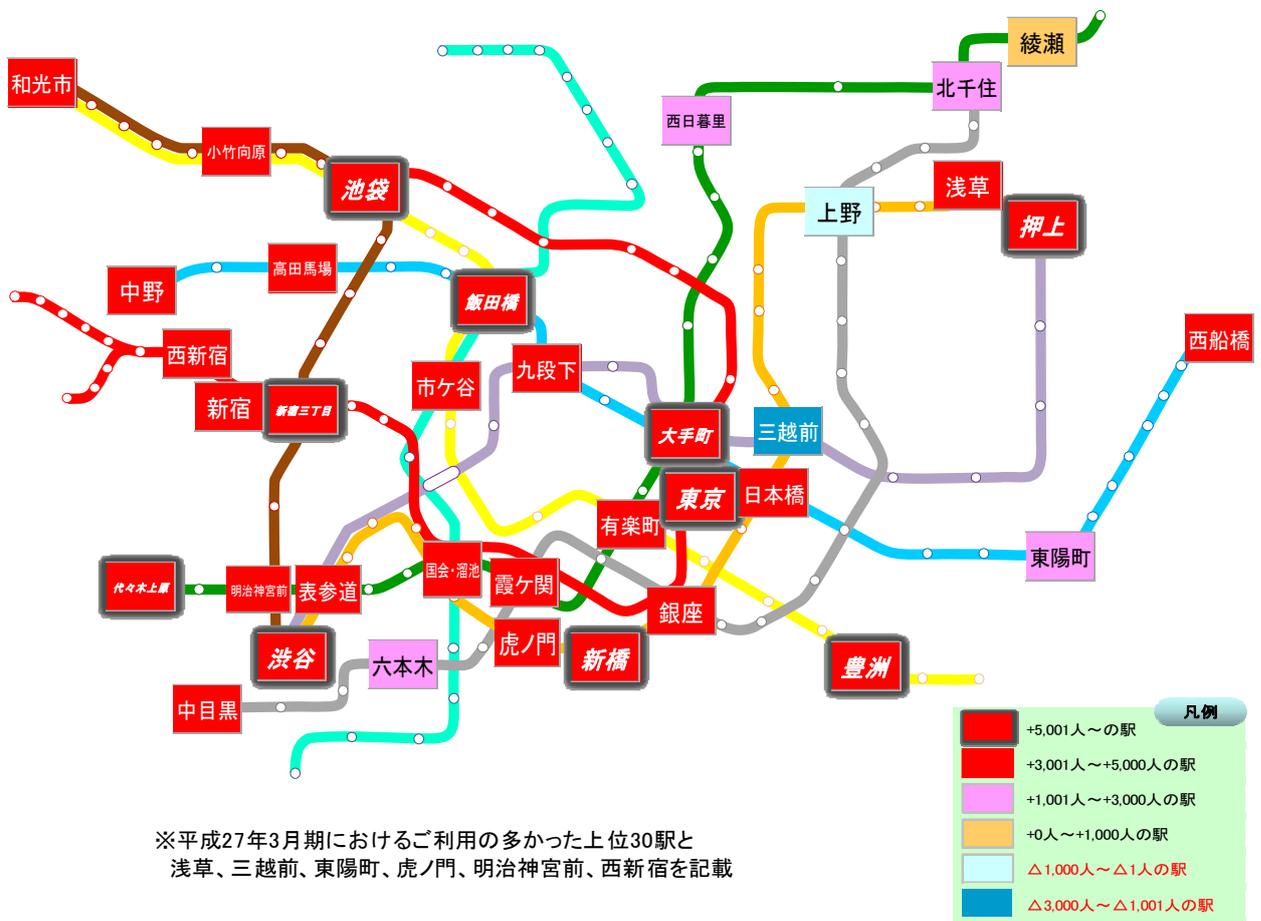
区分	旅 客 運 輸 収 入			
	27年3月期 第2四半期(累計) A	28年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
	百万円	百万円	百万円	%
定 期	69,116	71,932	+2,816	+4.1
定 期 外	88,724	92,330	+3,605	+4.1
合 計	157,841	164,263	+6,421	+4.1

(注)1. ()内は一日平均

2. 単位未満切捨て表示(一日平均輸送人員は除く)

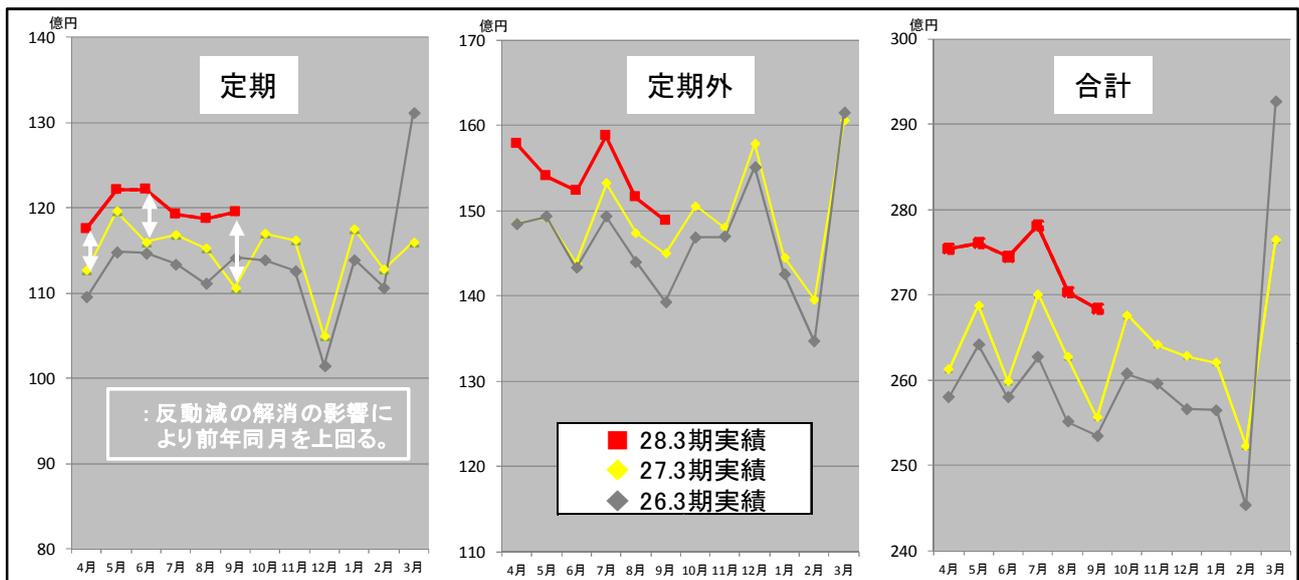
【参考7】主要駅における一日平均乗車人員の比較(前年同期比)

- 沿線の経済活動の活性化、再開発や副都心線の相直効果等に加え、定期券等の先買いの反動減が解消され、沿線全体でほぼ満遍なく前年同期比でご利用が増加しました。
- 減少した駅の事由は上野（上野東京ラインの開業）、三越前（再開発開業から一年が経過した反動）と見ています。
- 合計では、下図に記載の主要駅以外も含めた当社全駅のうち、95%以上の駅で増加しております。



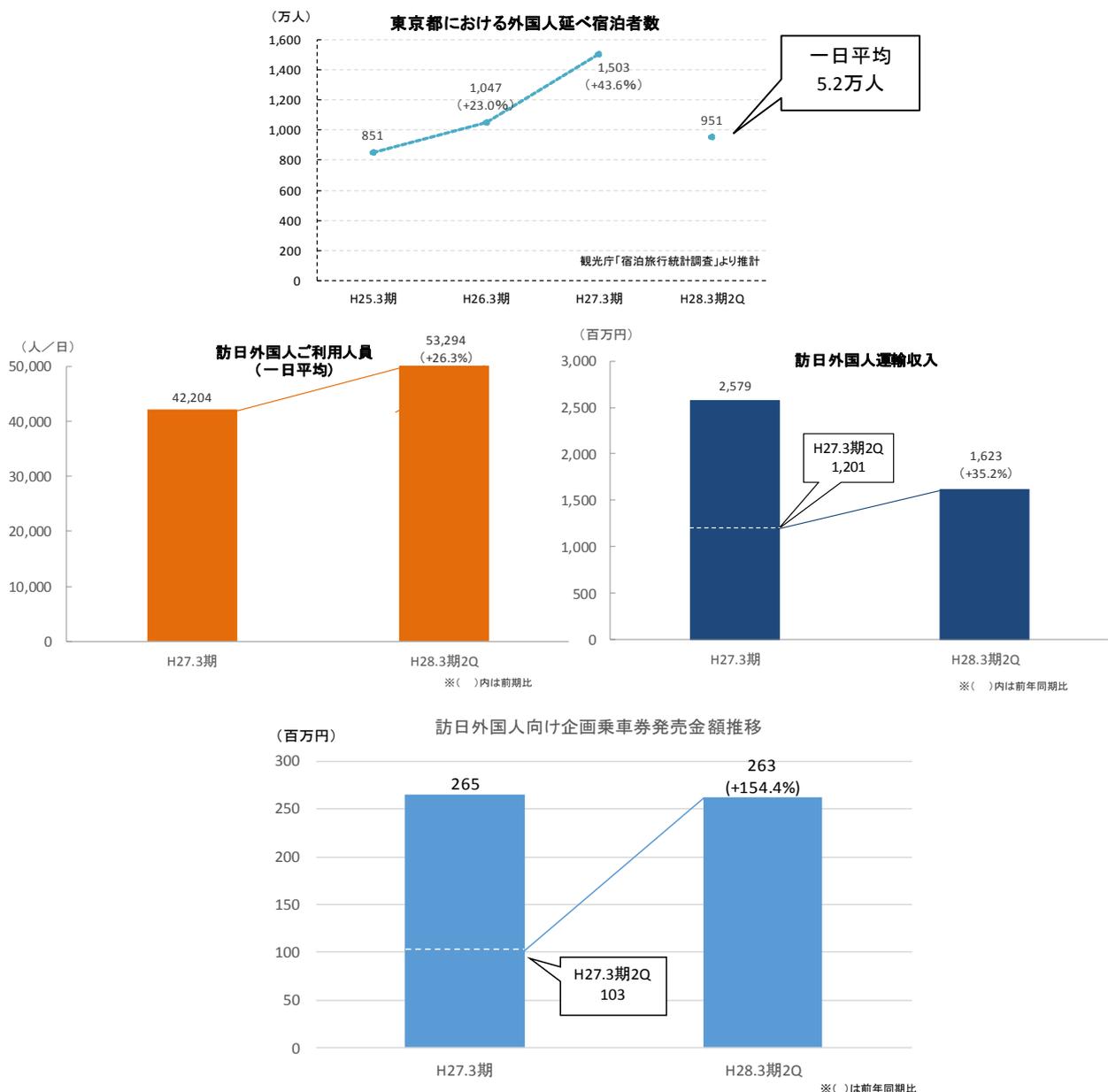
【参考8】月別旅客運輸収入の比較(定期・定期外・合計)

- 定期は、4月と6月および9月に、前期に発生した先買いの反動減が今期は解消したこと、その他の各月においても前年同月を上回り、堅調に推移しました。
- 定期外は、回数券の先買いの反動減が解消されたことに加えて、休日のお出かけ需要や訪日外国人の増加により、私事利用・観光利用が好調に推移しており、各月で前年同月を上回りました。
- 定期、定期外の合計についても各月とも前年同月を上回りました。



【参考9】訪日外国人の当社のご利用状況(推計)

- 平成27年3月～4月にかけて、訪日外国人に対してインターネットを利用したアンケート調査の結果（東京エリア内の訪日外国人が観光地を訪問する一日平均箇所数（トリップ回数）は約3か所／人、メトロ利用率は3割強）と観光庁等から発表の訪日外国人宿泊統計等の既存統計を加味して、訪日外国人の当社のご利用状況を推計しました。
- 訪日外国人の運輸成績への影響について、ご利用人員は一日平均5.3万人と、平成27年3月期末より1.1万人、26.3%の増加、旅客運輸収入は平成28年3月期第2四半期で16.2億円、前年同期比4.2億円、35.2%の増加と推計しました。
- ※ 外国人向け企画乗車券の発売実績は平成28年3月期第2四半期で2.6億円と半年で平成27年3月期の発売実績に達しており、前年同期比で1.6億円、154.4%増加しました。



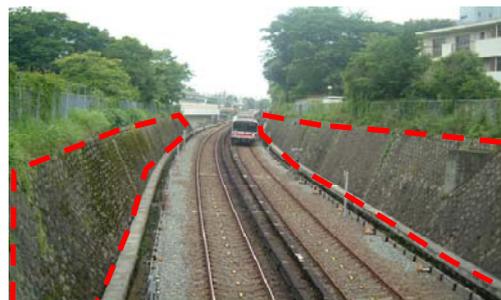
(注) 東京都における外国人延べ宿泊者数のグラフ中のH27.3期の数値は、前回プレス時点での推計値であり、統計値と違う場合がある。

【参考10】平成28年3月期第2四半期における当社グループの主な取組

(1) 自然災害対策の推進

・地震発生時に備えた震災対策の実施

首都直下地震等の発生時における早期運行再開を実現するため、従来補強不要と判定されていた高架橋の柱約1,200本を対象に耐震補強工事を推進しています。さらに、地上部の石積み擁壁の補強工事を進めています。



石積み擁壁イメージ

・大規模水害に備えた浸水対策の実施

大規模浸水対策として、換気口に新型浸水防止機の設置を進めています。さらに出入口については、止水板の改良、腰壁の嵩上げ、既存構造物を利用した完全防水及び建て替えによる完全防水を実施するとともに、坑口等への浸水対策についても推進しています。

換気口の対策強化



換気口の浸水防止機を水深6mの水圧に対応可能な新型へ順次更新しています。

新型浸水防止機イメージ

出入口の対策強化



駅出入口への防水扉・止水板の設置等を進めており、日比谷線・東西線茅場町駅において完全防水型の出入口を増設しました。

完全防水型出入口
(茅場町駅)



坑口等の対策強化



トンネルの断面を閉鎖することができる防水ゲートを設置します。

防水ゲートイメージ

(2) 大開口ホームドア実証試験

車両のホームドア位置及びドア幅が異なる列車が運行されている路線へのホームドアの早期設置に向けて、ホームドア開口寸法を拡大した2重引き戸式大開口ホームドアを東西線妙典駅1番線(西船橋方面)の1開口分に設置し、機器運用及び通過列車による風圧の影響等について実証試験を実施しました。



大開口ホームドアイメージ

(3) 銀座線リニューアル

「伝統×先端の融合」を路線コンセプトとし、銀座線全線のリニューアルを進めました。

全駅改装

「東京メトロ銀座駅デザインコンペ」を開催し、入賞作品を選定しました。また、浅草駅及び上野駅で改装工事に着手しました。



上野駅改装 改札口イメージ

1000系車両へ更新

新たに5編成(30両)導入し、計25編成(150両)で営業運転を行いました。また、操舵台車の採用により、騒音と振動の低減、走行エネルギー削減に寄与しています。



銀座線1000系

ホームドアの設置

銀座線全駅への設置に向けて、ホームの補強工事を進めています。



ホームドア設置イメージ

渋谷駅移設工事

渋谷駅周辺再開発と連携した銀座線渋谷駅の移設・改良工事を進めています。



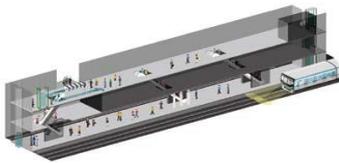
渋谷駅完成イメージ

(4) 東西線の遅延解消及び混雑緩和

混雑に伴う遅延の解消を目指した取組を進めており、茅場町駅のホーム延伸工事、木場駅のホーム・コンコースの拡幅、東陽町駅の出入口増設、南砂町駅のホーム・線路増設工事等を進めました。また、飯田橋駅～九段下駅間折返し設備整備工事の発注を行いました。

木場駅

ホームとコンコースを拡幅して、お客様の流れを分散し、混雑緩和を図ります。



改良後の木場駅イメージ

南砂町駅

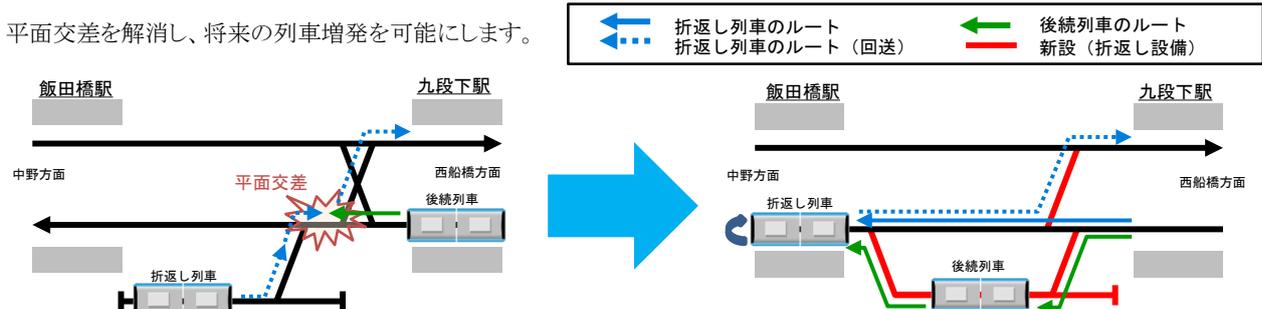
線路・ホームを増設し、列車の交互発着を行い、遅延防止と混雑緩和を図ります。



改良後の南砂町駅イメージ

飯田橋駅～九段下駅間折返し設備整備

平面交差を解消し、将来の列車増発を可能にします。



【茅場町駅】

ホームを延伸して、お客様の流れを分散し、日比谷線への乗り換えをスムーズにします。

【東陽町駅】

西船橋方面ホームの混雑緩和対策として、出入口及び改札口の増設を行います。

(5) お客様視点に立ったサービスの充実

全てのお客様が安心してご利用いただけるよう、バリアフリー設備の整備を積極的に推進しています。また、駅冷房設備やホームベンチの整備により、駅の快適性を高める取組を進めています。

ホームベンチ整備

ホーム上のベンチのリニューアル・増設を行い、電車を座ってお待ちいただける環境を整備しています。



ホームベンチイメージ

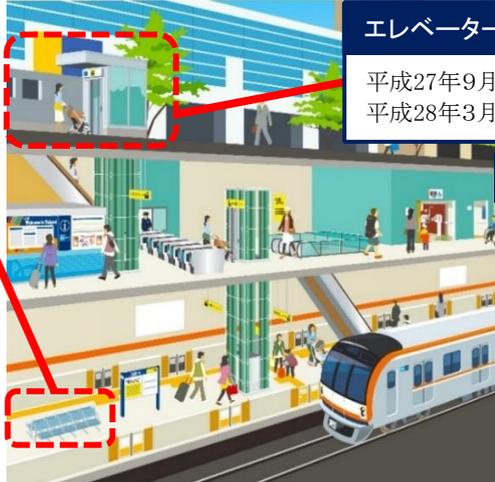
エレベーターによる1ルート整備

平成27年9月末	79.9% (143駅/179駅)
平成28年3月末	81.0% (145駅/179駅) (予定)

駅冷房設備の整備

お客様により快適にご利用いただくため、地下における駅冷房設備の整備を推進しました。

平成27年9月末	96.2% (152駅/158駅)
平成28年3月末	100% (158駅/158駅) (予定)



・外国人旅行者のお客様の利用促進施策の展開

訪日タイ人旅行者の増加を受け、東京メトログローバルサイト(多言語ホームページ)タイ語版を平成27年7月から開設いたしました。

東京メトログローバルサイトは、当社をご利用される外国人旅行者のお客様向けに、乗車券のラインナップ、沿線の観光スポットや東京メトロの取組などを、英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・タイ語で発信する多言語ホームページで、毎月100万を超えるアクセスをいただいています。



グローバルサイトトップページ

【参考】平成28年3月期第2四半期における個別投資実績

平成28年3月期第2四半期における個別投資実績については、安全対策や旅客サービスを中心に422億円の設備投資を実施しました。引き続き、たゆみなき「安全」の追求と、お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供を目指し、平成28年3月期においては総額1,337億円の投資を行う予定です。

